加賀電子株式会社

東証一部：証券コード 8154

宮坂 健《街を運ぶ舟》

第51期
中間グループ報告書

2018年4月1日 ▶ 2018年9月30日

Kaga Electronics
Group Report

株主の皆様へ

“わが国業界No.1”の企業グループを形成し、更には“世界に通用する企業”を目指します！

代表取締役会長
塚本 勲

代表取締役社長
門 良一

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第51期中間期（2018年4月1日～2018年9月30日）における当社グループの業績につきましてご報告申し上げます。

売上高	1,153億83百万円（前年同期比1.0%減）
営業利益	37億72百万円（前年同期比14.2%減）
親会社株主に帰属する四半期純利益	27億50百万円（前年同期比21.8%減）

当中間期における世界経済は、米国が輸入関税を発動したことに端を発して中国およびEUとの貿易摩擦が不安視されつつも、わが国をはじめとして米欧中の主要地域の景気は緩やかな回復基調が続きました。

かかる状況の中、当社グループは「すべてはお客様のために」の経営理念のもと、既存顧客からの要請に対応して海外における生産拠点の拡充を進めるとともに、国内においても生産拠点の整備および機能強化を図るなど、EMS(注)ビジネスの拡大に注力してまいりました。また、前連結会計年度後半より顕在化している、パワー半導体やコンデンサなど一部電子部品における需給逼迫に対しては、独立系商社としての総合力を活かした部品調達や代替品の提案等により、当社グループの事業活動への影響低減に最大限努めてまいりました。

これらの結果、当中間期の連結売上高につきましては、一部顧客における生産調整や製品切り替えに伴う一時的な数量減などの影響を受けましたが、EMSビジネスが全般的に堅調な受注環境の中で推移したことなどにより前年同四半期比で微減となりました。また、利益面では、前述の数量減の影響に加えて、立ち上げ期にある海外新工場での費用先行などによる影響があり、前年同四半期比で減益となりました。

なお当社は、お客様の様々なニーズにお応えしていくことで当社グループの業容を拡大し続け、2018年9月12日をもちまして創立50周年を迎えることができました。これもひとえに株主様をはじめ、関係者の皆様からの長年のご支援の賜物と感謝申し上げます。

つきましては、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を表するため、当中間配当金につきましては「創立50周年記念配当」を実施することとし、期初予想の普通配当30円に創立50周年記念配当5円を加えて、1株につき35円とさせていただきました。

当社グループを取り巻く事業環境の変化は加速しており、未だ多くの競合企業が存在するエレクトロニクス商社業界で今後ますます厳しくなる企業間競争に勝ち残っていくための施策の一環として、本年9月10日に「富士通エレクトロニクス株式会社の株式取得（子会社化）」を発表いたしました。また、11月6日には本件も織り込んだかたちで当社が描く中長期の成長シナリオの概要を「中期経営計画2021」として発表いたしました。

富士通エレクトロニクス株式会社の子会社化により、当社は売上高5,000億円級の企業グループを形成することとなり、「わが国業界№1企業」として経営基盤を固め、これを足場にして売上高兆円級の海外競合企業とも伍して戦える「世界に通用する企業」として更に成長すべくグループ経営の規模および質の向上に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(注) Electronics Manufacturing Serviceの略語。製品の開発・生産を受託するサービス。

「中期経営計画2021」がスタート “世界に

加賀電子グループは、次の50年、更にその先を見据えた“未来の加賀電子グループ”の創造に向けた新たな出発点と「利益重視の経営」の確立・定着を通して、“わが国業界No.1”の企業グループを形成し、更には、“世界に通用する企業”

基本方針

収益基盤の強化

時流を先読みする当社グループのDNAを活かし、**高い成長性および収益性が見込める市場に注力**、収益基盤の強化を図る

- 成長分野への取り組み強化:「車載」「通信」「環境」「産業機器」「医療・ヘルスケア」
- EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大

経営基盤の安定化

富士通エレクトロニクスの子会社化後の**効率性・財務健全性の早期改善**に向けて経営基盤の強化を図る

- グループ横断的なコスト削減施策の継続
- 組織体制整備によるグループ経営の効率化推進
- コーポレートガバナンスの強化、人財の育成

新規事業の創出

外的環境変化への耐性強化のため、自社リソースおよびM&Aを積極的に活用、新規事業の創出を図る

- 「社会課題(保育、福祉、介護など)ビジネス」、「素材ビジネス」の取り組み
- ベンチャー投資によるオープンイノベーションの推進
- M&Aの積極的な活用

オーガニック成長
＋
更なる
M&Aの挑戦

加賀電子
グループ
＋
富士通
エレクトロニクス

グローバル競争に
“世界に通用する企業”

“わが国業界
No.1企業”の実現へ

売上UP

商社ビジネスの
量的拡大

商社ビジネスの
拡大を
EMSビジネスの
成長につなげる

中期経営計画2021(2019 - 2021)

中長期ビジョン

通用する企業”を目指す。

すべく2020年3月期から2022年3月期までの3か年における中期経営計画を策定いたしました。
を目指します。

経営目標

	2018年度 通期業績見通し	最終年度経営目標 (2021年度)
売上高	2,900億円	5,000億円
営業利益	77億円	130億円
ROE	9.9%	8.0%以上

業界No.1を目指し
富士通エレクトロニクスを子会社化

加賀電子は、成長戦略の一環として、富士通エレクトロニクス株式会社（以下、富士通エレクトロニクス）の株式を取得し子会社化することといたしました。これにより、以下の施策効果を見込んでおります。

① 電子部品・半導体ビジネスのシェア拡大
② EMSビジネスの事業規模拡大
③ 両社事業協業に伴う経営効率の更なる向上

また、株式取得は、富士通エレクトロニクスが当社グループにおいても円滑に事業が継続できるよう、2019年1月の第一段階の株式譲渡以降、段階的（※）に行う予定です。第三段階の株式譲渡完了をもって富士通エレクトロニクスは当社の完全子会社となる見込みです。

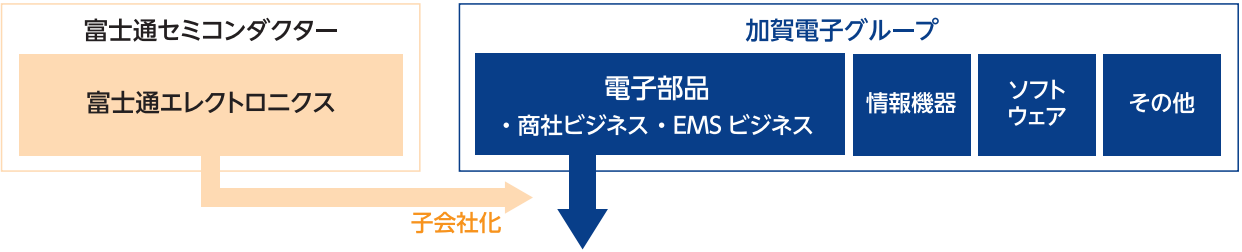
【富士通エレクトロニクスの概要】

所在地	神奈川県横浜市港北区新横浜2-100-45 新横浜中央ビル
代表者の役職・氏名	代表取締役社長　荻原 淳二
事業内容	電子デバイス製品の設計・開発及び販売
資本金	4,878百万円
設立年月日	1952年5月2日
大株主及び持株比率	富士通セミコンダクター株式会社 100%

※第一段階は2019年1月1日に70%、第二段階は2020年12月28日に15%、第三段階は2021年12月28日に15%の株式譲渡が実行される予定。

本件買収の目的

▶ 中核をなす電子部品の事業規模を非連続に拡大、“業界 No.1 企業”の実現へ



取扱い商材の拡大、
顧客基盤の共有により、
わが国業界 No.1
の企業グループを形成

先ずは商社ビジネスから
入って EMS へ展開、
利益額の拡大と利益率の向上を実現

本件買収を足場に、
グローバル競争に勝ち残る
世界に通用する企業
を目指す

ファイト・スピリッツ

加賀電子グループは、エレクトロニクス総合商社として、
つねにあらゆる可能性にチャレンジしてきました。
F.Y.T.の精神に基づく様々な取り組みをご紹介いたします。

F.Y.T.［ファイト］
Flexibility ▶ 柔軟性を持って
Young ▶ 心の若さを持って
Try ▶ 絶えず挑戦

ファイト・スピリッツ #01

加賀マイクロソリューション 福島県須賀川市に新工場建設

加賀マイクロソリューション㈱は、国内における生産能力増強のため、福島県須賀川市に新工場を建設いたします。2019年夏頃、竣工および稼働予定です。

新工場の概要

名　称	加賀マイクロソリューション㈱ 福島事業所（仮称）
所 在 地	福島県須賀川市森宿
敷地面積	約29,400平米
延床面積	約6,000平米

ファイト・スピリッツ #02

インドに子会社設立

当社は、既存の中国、アセアン、欧州、米州に展開する「グローバル EMS 拠点構想」の一環として、インドに現地法人を設立しました。2019年春の生産開始を計画しております。

インド子会社の概要

会 社 名	KAGA ELECTRONICS INDIA PRIVATE LIMITED
代 表 者	村松 祐行
所 在 地	インド共和国ハリヤナ州グルガオン
設立年月日	2018年9月28日
資 本 金	280万ドル（約3億円）
事業内容	車載、空調機器、家電製品向けEMS事業

ファイト・スピリッツ #03

「統合レポート2018」を発行

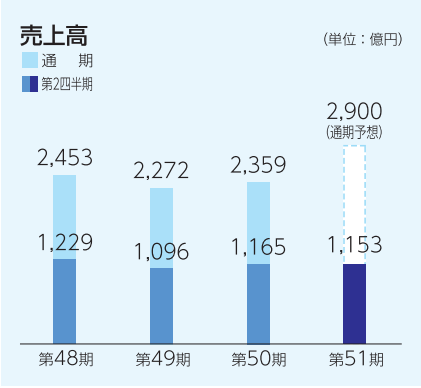
当社では、決算情報や事業内容に加え当社の強みや戦略、社会貢献活動・ガバナンス体制等を記載した統合レポートを作成いたしました。

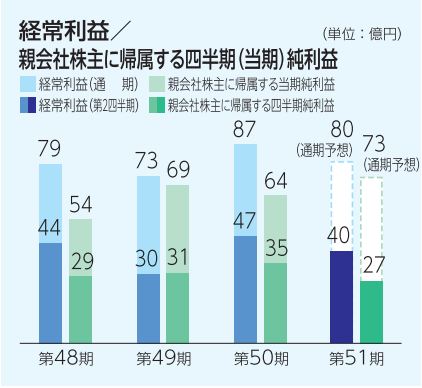
https://www.taxan.co.jp/jp/ir/upload_file/m005-m005_09/20181105.pdf

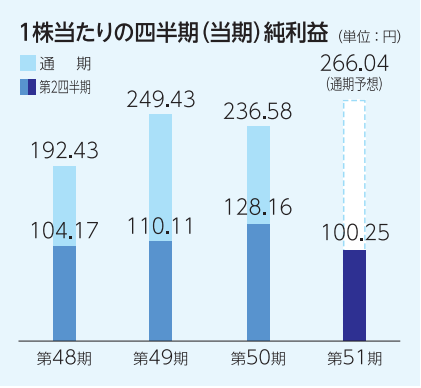
加賀電子　　統合レポート　　検索

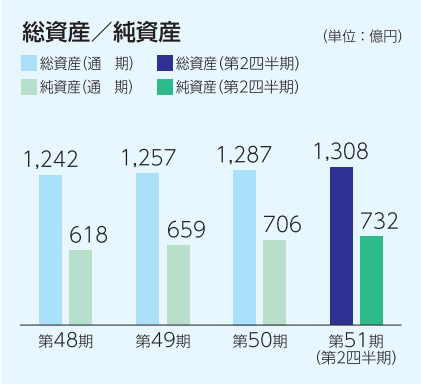
連結財務ハイライト

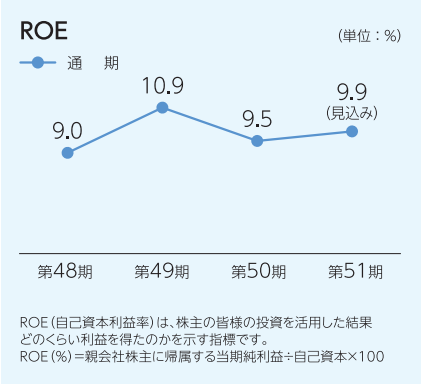
- 売上高は、EMSビジネスが牽引し、概ね前年同期並みの水準
- 利益面では、一部顧客の生産調整や製品切替による一時的数量減による影響や海外新工場での費用先行等により減益
- 創立50周年を迎え記念配当（増配）5円を実施

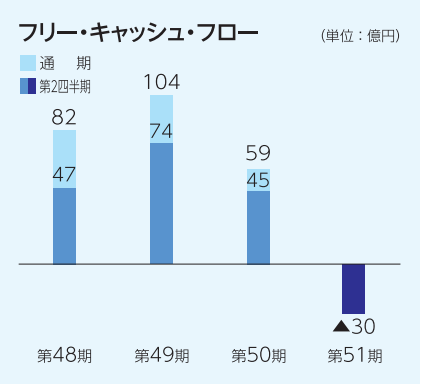




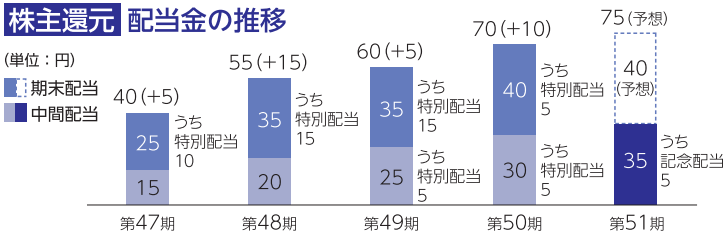








科　　目	第51期 通期業績予想
売上高	2,900億円
営業利益	77億円
経常利益	80億円
親会社株主に帰属する当期純利益	73億円



四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期末（2018年9月30日現在）	前期末（2018年3月31日現在）
資産の部		
流動資産	104,264	104,069
固定資産	26,547	24,685
有形固定資産	12,456	12,210
無形固定資産	964	878
投資その他の資産	13,126	11,595
資産合計	130,811	128,755
負債の部		
流動負債	49,328	49,707
固定負債	8,235	8,416
負債合計	57,564	58,123
純資産の部		
株主資本	70,909	69,127
資本金	12,133	12,133
資本剰余金	13,853	13,853
利益剰余金	46,969	45,183
自己株式	△2,047	△2,042
その他の包括利益累計額	2,252	1,428
非支配株主持分	85	75
純資産合計	73,247	70,631
負債純資産合計	130,811	128,755

（注）「「税効果会計に係る会計基準」の一部改正」（企業会計基準第28号　平成30年２月16日）等を当期期首から適用しており、前期末の指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（累計）（自2018年4月１日 至2018年9月30日）	前第2四半期（累計）（自2017年4月１日 至2017年9月30日）
売上高	115,383	116,582
売上原価	99,360	100,363
売上総利益	16,023	16,218
販売費及び一般管理費	12,251	11,824
営業利益	3,772	4,394
営業外収益	448	401
営業外費用	171	92
経常利益	4,049	4,703
特別利益	225	552
特別損失	132	343
税金等調整前四半期純利益	4,142	4,913
法人税、住民税及び事業税	1,069	756
法人税等調整額	314	628
法人税等合計	1,384	1,385
四半期純利益	2,758	3,527
（内訳）		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,750	3,516
非支配株主に帰属する四半期純利益	7	11

（注）記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

セグメント別売上高

電子部品事業

EMS(注)ビジネスは車載向けおよび空調機器向けは引き続き順調に推移しましたが、医療機器向けは主要顧客の製品切替えに伴う生産調整により低調に推移しました。部品販売ビジネスは、家電製品向けで主要顧客における生産調整の影響等により低調に推移しました。これらの結果、当第２四半期連結累計期間における売上高は834億55百万円（前年同期比2.9％減）となり、セグメント利益は24億74百万円（前年同期比14.5％減）となりました。

（注）Electronics Manufacturing Serviceの略語。製品の開発・生産を受託するサービス。

情報機器事業

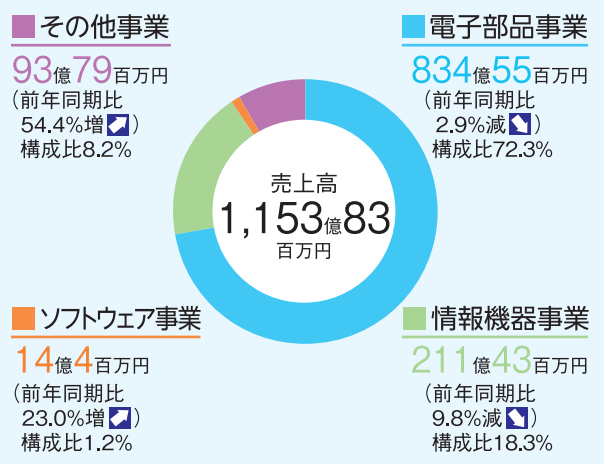
住宅向け家電販売ビジネスおよび商業施設向けLED設置ビジネスが、引き続き順調に推移しました。一方、パソコンおよびPC周辺機器販売は市場低迷の影響を受けて低調に推移しました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は211億43百万円（前年同期比9.8％減）となり、セグメント利益は8億64百万円（前年同期比22.6％減）となりました。

ソフトウェア事業

CGアニメーション制作やゲームソフトの開発などが堅調に推移しました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は14億4百万円（前年同期比23.0％増）、セグメント利益は1億43百万円（前年同期比28.1％増）となりました。

その他事業

PC製品およびPC周辺機器のリサイクルビジネスやアミューズメント業界向けゲーム機器販売が好調に推移しましたが、ゴルフ用品販売が低調に推移しました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は93億79百万円（前年同期比54.4％増）となり、セグメント利益は2億16百万円（前年同期比9.2％増）となりました。



グループ・ネットワーク

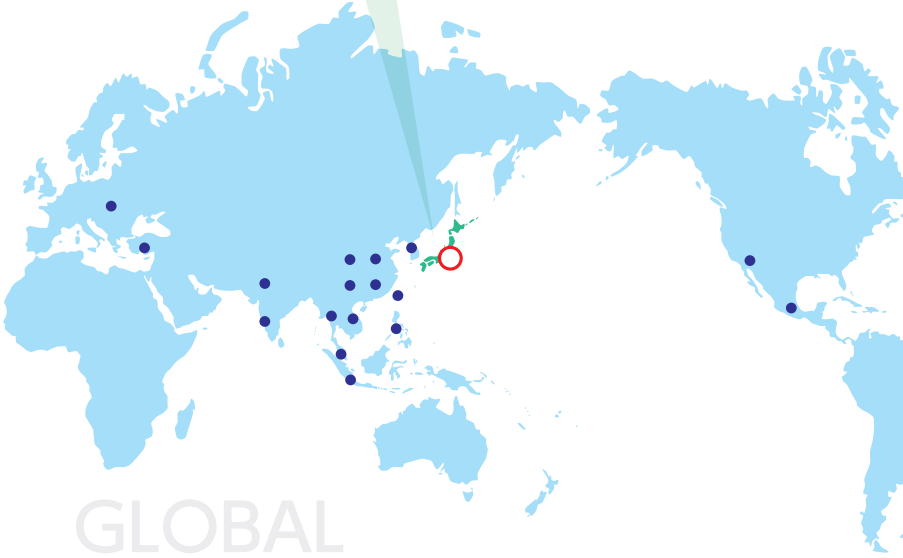
主な国内拠点

- 本　社　TEL. 03-5657-0111
- 電子事業部　TEL. 03-5657-0121
  - 北関東営業所　TEL. 048-667-3321
  - 北陸営業所　TEL. 076-262-0711
  - 関西営業所　TEL. 06-6105-0430
  - 名古屋営業所　TEL. 052-746-6480
  - 新横浜営業所　TEL. 045-473-7321
  - 浜松営業所　TEL. 053-457-1661
  - 福岡営業所　TEL. 092-282-1140
  - 仙台営業所　TEL. 022-722-7410
  - 新潟営業所　TEL. 0258-38-8351
  - 広島営業所　TEL. 084-973-7051
- 通信事業部　TEL. 03-5657-0120
- 営業推進事業部　TEL. 03-5657-0114
- EMS事業部
  - 営業第一部　TEL. 03-5931-0106
  - 営業第二部　TEL. 06-6105-0433
- 特機事業部
  - 営業第一部　TEL. 03-5931-0102
  - 営業第二部　TEL. 052-746-6481
  - 関西営業課　TEL. 06-6105-0430
  - 特販営業部　TEL. 03-5931-0102
  - AM営業部　TEL. 03-5931-0103
- 特販事業部　TEL. 03-5657-0123
- 技術統括部　TEL. 03-5657-0130

主な国内関係会社

加賀テック㈱	TEL. 03-5657-0140
加賀デバイス㈱	TEL. 03-5657-0144
加賀ソルネット㈱	TEL. 03-5931-0123
㈱エー・ディーデバイス	TEL. 03-5657-0141
加賀マイクロソリューション㈱	TEL. 03-5657-0150
㈱デジタル・メディア・ラボ	TEL. 03-5931-0147
加賀スポーツ㈱	TEL. 03-5657-0148
加賀アミューズメント㈱	TEL. 03-5931-0134
加賀テクノサービス㈱	TEL. 03-5619-4111

主な海外拠点



主な海外関係会社

- KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED
- KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD
- KAGA (KOREA) ELECTRONICS CO.,LTD.
- KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO.,LTD.
- 加賀電子(上海)有限公司
- KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED
- KAGA ELECTRONICS (USA) INC.
- 加賀電子(大連)有限公司
- KD TEC s.r.o.
- TAXAN MEXICO, S.A. DE C.V.
- KD TEC TURKEY ELEKTRONIK SANAYI VE TICARET LIMITED SIRKETI
- KAGA ELECTRONICS INDIA PRIVATE LIMITED

会社概要/株式の状況（2018年9月30日現在）

会社概要

設立	1968年9月12日
資本金	121億3,354万円
従業員数	582名（単体：男404名・女178名）
平均年齢	41.6歳（男43.9歳・女36.5歳）
事業の内容	当社は、電子機器用エレクトロニクス部品の企画、開発、製造、仕入販売、コンピュータおよび周辺機器・関連部品・付属品・ソフトウェアなどの仕入販売ならびに輸出入を主な業務とし、これに付帯する業務も営んでおります。

役員

代表取締役会長	塚本　勲
代表取締役社長	門　良一
専務取締役	高橋信佐
専務取締役	髙師幸男
専務取締役	筧　新太郎
常務取締役	川村英治
取締役	俊成伴伯
取締役	野原充弘
社外取締役	三吉　遲
社外取締役	田村　彰
常勤監査役	亀田和典
常勤監査役	石井隆弘
社外監査役	橘内　進
社外監査役	佐藤陽一

株式の状況

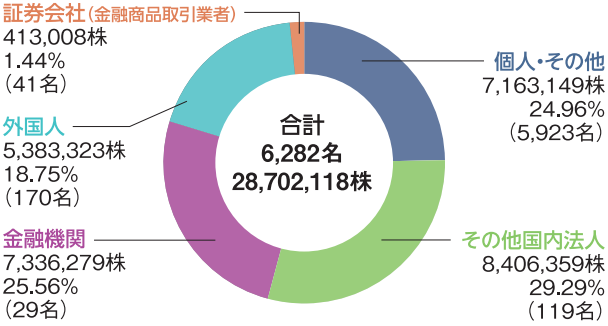
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	28,702,118株
単元株式数	100株
株主数	6,282名

大株主の状況

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
1. 株式会社三共	3,824	13.94
2. 株式会社ＯＫＯＺＥ	1,840	6.71
3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,326	4.84
4. 株式会社三菱ＵＦＪ銀行	1,212	4.42
5. 加賀電子従業員持株会	1,114	4.06
6. 株式会社みずほ銀行	950	3.46
7. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	768	2.80
8. 塚本　勲	735	2.68
9. GOVERNMENT OF NORWAY	536	1.96
10. 沖電気工業株式会社	526	1.92

（注）1. 持株数は千株未満を切捨てて記載しております。
2. 上記のほか、自己株式が1,267千株あります。
3. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
4. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）および日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）の持株数は、信託業務によるものであります。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 電話　0120-232-711（通話料無料）
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞（東京）に掲載します。 公告掲載URL　https://www.taxan.co.jp/

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

表紙・絵 | 宮坂 健 KEN MIYASAKA

街を運ぶ舟

子供の頃に、古代の人々が考えた地球、大地の図を何かの本で見た記憶がある。それは巨大なカメの上に四頭の象がいて大地を支えている絵だったと思う。今では地球が宇宙に浮かぶ小さな惑星で球体であることは誰でも知っているが、もしかしたら大地の果ては海でその海はどこかで世界の外に流れ落ちていて、何者かが我々の大地を支えているかもしれない。そう考えると古代の人々の意識や温もりがそこから伝わってくるような気もする。

プロフィール

作者略歴：1949年生まれ　安井賞展、
浅井忠記念賞展、セントラル油画大賞展、
日本青年画家展など
個　　展：日本橋三越など
著　　書：『地球、旅の記憶』

加賀電子株式会社

〒101-8629　東京都千代田区神田松永町20番地
TEL 03-5657-0111（代）　FAX 03-3254-7131
https://www.taxan.co.jp/
東証一部：証券コード 8154

（お問い合わせ先）
IR・広報室　TEL 03-5657-0106

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C010958

JSA JISQ 14001:1996 登録番号 JSAE594

JAB EMS Accreditation EMS Accreditation 認定番号 RE005